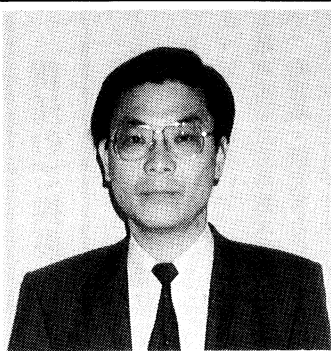


立命電友会

「関東立電会 会員からの一報告」 『ガンバツテマス!』

(株)日立製作所情報システム事業部産業第四システム部

主任技師 矢野 朝臣



早いもので平成四年十一月に立命電友会が発足して一年半が経過し、こうして会報第三号が出る運びとなりました。さらに今年四月に立命館大学理工学部びわこ・くさつキャンパス移転という大事業も無事完了し、新緑萌える新キャンパスで気分も新たに電気電子工学科の先生・職員の方々及び学生諸君も生活を始めています。さて今回御報告させて頂きます

「関東立電会」は、理工学部(旧専門部を含む)電気工学科の卒業生で関東地区(東京・神奈川・千葉・埼玉)に在居もしくは勤務されている方々で構成されており、現在、鎌田豊彦会長、池田嗣郎・米沢正勝両副会長、中村秀治相談役を中心に三五〇名のメンバーを対象として活動しています。

定例会として毎年十一月の第二木曜日に懇親会を開催し、日頃のストレスの発散の場、情報交換の場として電気工学科の先生方や校友会の方々をお招きしたりして常時約四〇名の方が出席されています。一昨年は辻村先生、昨年は浦山先生、情報工学科の井上先生にご出席願いました。

私は、この中で日立関連プロジェクトの幹事として、懇親会開催通知及び出欠のとりまとめを担当して

います。副会長の米沢先輩から我ブロックの出席率向上を最大のタスクとして頑張る様、熱いバックアップとフォローを戴いている次第です。当関東立電会は、出席された方はお判りになると思います、大先輩が多数、非常にお元気で出席して下さるのが特徴であり、かといつて威圧的でなく、まさしく立命の本質である自由闊達な良さが出ています。私などは卒業年次順で見ると常に出席名簿の若い方の一〇名の中に位置しています。できるならもう少し若い方の出席を図ることが課題であると思っています。

少し私の紹介をさせて頂きますと、昭和五〇年卒業以来、神奈川・千葉と住居は変わりましたが、一貫してコンピュータ関連のシステムエンジニア(SE)として仕事を続けてきて、あと数年で関西・関東の生活年数が等しくなってしまう。(とは言うものの言葉はどうしても関西訛りが取れない様です)入社以来十数年間製造業の化学関係ユーザを担当、その後航空会社、そして今年二月からテレビ・新聞という報道関連業種ユーザ担当として、今新聞を賑わしているマルチメディアに最も近い技術に直面しています。元来製造業として工場的なクローズした世界から、情報メディアサービ

スという実生活の最先端の世界へ突然ワープしてしまい、頭の中で整理されない部分があり諸々の点で面食らう事があります。関連ある諸先輩の暖かいご支援ご指導を賜りたくお願いする次第です。

業種柄昨今の動向として、大型汎用システムのダウンサイジング・ライトサイジング化の為此れまでとは大きく相違したワークステーション・パソコン関連の技術が主流となりつつあり、若い人たちが仕事を進めて行く上で思考を柔軟にして、新しい知識を貪欲に吸収する必要がある何かと楽しみつつも悪戦苦闘している毎日です。この様な中、実は今年からリクルート活動の担当として母校との接触を始めています。びわこ・くさつキャンパスに移転して間もない四月二十一日、電気工学科就職委員の川畑先生に御挨拶に伺う機会を得、初めて新キャンパスを訪問しました。想像以上に広く感じられる敷地に驚くと共に、出来たばかりのこの学舎がこれから何年・何十年経って当地の伝統ある理工学部として存在している姿を頭に描くと、何となく嬉しくなってしまう。

残念ながら、私が指導して戴いた山田先生は本年三月定年退職されてお会い出来ませんでした。その代りといつては何ですが四月

一日付で弊社から電気電子工学科教授として来られた寺井先生にお会い出来ました。直接仕事を御一緒させて戴いたことは在りませんが、色々共通の話題に触れる事ができ、今後御支援、御協力戴けるものと心強く感じました。リクルートプロジェクトとして私と共に活動してくれているメンバーは、白坂学君(浦山研)、上園昌一郎君(辻村研)、辻隆史君(荒木研)の三名で五月十六日のOB就職懇談会を皮切りに、先生方とコンタクトを取らせて戴いていますので宜しくお願い致します。彼らは、リクルートで関西出張となると喜んで土日挟んで帰省できるよう戦術を練って計画的に作業を進めてくれています。

以上、関東立電会会員として遠く(?)関西を離れて生活している方々を代表しての近況を御報告しましたが、これから立命電友会の皆様と様々な縁によって出会うを持てる事を期待すると共に、びわこ・くさつキャンパスをベースとして立命館大学理工学部電気電子工学科がさらに世界に誇れる学科になられる事を、電友会各位と共に心から祈念申し上げます。

立命電友会のさらなる発展と先生方はじめ会員の皆様の御健康と御多幸をお祈りしつつ御報告とさせて頂きます。

新任のご挨拶

電気電子工学科 名西愼之

この素晴らしいびわこ・くさつキャンパスにおいて、新しい歴史を踏み出した立命館大学理工学部で、教育者・研究者としてのやはり新しい人生を再出発させて頂くことになりました。長い歴史にささえられた伝統と、実績のある立命館大学、電気電子工学科で、二十一世紀を切り開いて行く学生諸君の教育に携われることは、この上ない喜びと感謝するとともに、その責任の重大さに身の引き締まる思いを致しております。

昭和四十六年三月に大学院を出て二十三年間NITの研究所（もちろん昭和六十年に民営化するまでは、日本電信電話公社）で一貫してGaAsを中心とする化合物半導体の研究に携わって参りました。この間、一九七八〜八〇年（昭和五十三〜五十五年）の二年間はMITの客員研究員としてNASAからの委託研究の遂行と、大学院生の指導にあたる機会も得ました。私が入社した前年の一九七〇年は、化合物半導体にとって極めて重要な年で、ベル研究所より半導体レーザの室温連続発振の発表が、

またコーニング社より20dB/Kmという低損失ファイバの発表がある一方で、電子デバイスにおいてもIBM社から、最高発振周波数30ギガヘルツのGaAs MES-FETの発表がなされました。このよう

な中で、光通信およびミリ波通信等の実用化を目指して、本格的な化合物半導体の研究が開始され、私もその一員として研究に参画することになりました。ここで研究

開発された技術を基に、全国縦断の光通信網が張りめぐられ、衛星通信や衛星放送、移動通信等が次々と導入されて来た歴史を振り返る時、現代社会を切り開いた先端技術開発の真っ直中で、研究生

活を送れたこれまでの人生に感謝するとともに、ここで得られた経験と知識を学生諸君に伝え、更に二十一世紀を切り開く新技術を創

製するための教育と研究を展開して行く責任を感じております。理工学研究のメッカMITでの経験も、今後の立命館での教育と研究のあり方を考える上で、是非

役立たせたいと考えております。産業界、官界との協力関係は、社会と大学の健全な発展のために極めて重要であると確信しております。この点で社会の要望に十分

答えることが、私学発展の鍵を握っていると言えましょう。大学は基礎学力を十分に身に着けた有能な人材を社会に送り出す必要があるとともに、基礎的分野での研究を通して、社会や企業の将来の発展を支援して行く必要があると考えます。

今は何もわからず、手探りで走りはじめたところですが、全身全霊を傾けて、理想の実現に向け取り組んで行く覚悟です。

立命電友会の皆様のご指導・ご支援とご協力を、宜しくお願い申し上げます。

役員会開催報告

平成六年四月二十三日(立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)コアステーション第一会議室にて役員会が開催されました。

中島一郎副会長ならびに中西恒彦電気電子学系系長(電友会事務局)の挨拶につき、平成五年度事業報告が行われました。引き続き津田川勝會計幹事より昨年度会計の報告がなされ、前田稔夫会計監査役より厳重な監査の経緯説明があり、幾つかの質疑応答の上、平成五年度決算が満場一致で承認されました。質疑応答の際、二度にわたり会費納入用の振込用紙を

会報とともに送付したところ、既に納入済みである幾人かの会員より事務局に叱責の連絡があったとの報告が行われました。本件について、まず問い合わせのあった会員に対しては電話または書面にて事情説明の上お詫び申し上げたこと、そして振込用紙の送付の意図がすべての会員より会費をお納めいただくという目的からであったこと、会報の発送は経費節減の為に校友課を通じて学外の業者に全面的に委託しておること、など中西恒彦事務局長、津田川勝會計幹事より詳細な経緯が説明されました。次に、本年四月より電気電子工学科へ着任された寺井秀一、名西愼之両先生の本役員会委員への推薦がなされ、全会一致で承認されました。そして本年度事業計画(会報の発行、電気電子フォーラム参画、卒業記念祝賀会開催、財政計画)の説明があり、質疑応答の上、本計画が承認されました。

その後、岡田正勝委員より電気電子工学科が中心となって計画している「電子技術センター」構想の披露が行われました。会議後には、BKC内の電気電子工学科関連施設ならびにメディアセンターの見学が行われました。

平成六年度電気電子フォーラム十月に開催

幹事 小松康廣

立命館大学理工学部電気電子工学科は、産学交流の促進を目的とした電気電子フォーラムをこれまで二度(第一回は平成四年度於・立命館大学衣笠キャンパス、第二回は平成五年度 於・京都リサーチパーク)、皆様の御協力を賜り開催してまいりました。

本年度電気電子フォーラムは平成六年十月二十一日(金)(予定)に立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)(滋賀県草津市野路町一九一六)において開催いたします。主催は電気電子工学科があたり、立命電友会には協賛をお願いいたす予定であります。実行委員長には電気電子工学科津田川勝教授があたります。

前回のテーマ「二十一世紀への電子デバイスとその応用技術」に続き、今回は「信号・画像処理技術の現状と展望(仮称)」をテーマに六名の講師に御講演いただくよう企画致しております。当日は午前中に二件、午後四件の御講演(一件約一時間)を行い、その後BKC内で親睦会を予定しております。また、約一〇〇頁程の予稿集も作成、配付いたします。本学の講演予定者としては苅屋

公明教授、杉本末雄教授に、また学外からの講師の方々には「信号処理、画像処理」をキーワードに御講演をお願い致しており、その他についても現在交渉中であります。

九月には新しくJR琵琶湖線に南草津駅（瀬田駅と草津駅の間…びわこ・くさつキャンパスから約2kmのところ）が誕生し、本学にむけての新しい道路も整備されるようです。本フォーラムにお越しただく頃には、大学周辺の交通アクセスが大変便利になっているものと思われます。またFA・ロボティクス研究センター、電子技術センターなどの研究センター群が入る建屋が十月頃にはほぼ出来上がっているものと思われます。

是非とも、各企業で働くOB・OGをはじめとする多数の方々が新しいキャンパスの見学を兼ねてご参加されることを願っております。なお、詳細が確定しましたら、出来るだけ多くの方々にファクシミリ等で御連絡いたす予定であります。御関心の向きには、あらかじめ御連絡先等をファクシミリにて当フォーラム事務局（小松）まで、お知らせ下さいますようお願い致します。当件に関するお問い合わせは事務局（学科事務室…電話〇七七五―六一―二六六二またはファクシミリ〇七七五―六一―二六六三）までお願いします。

定年退職に当たって

前非常勤講師 岡本 弘

京都工芸繊維大学電気工学科に勤めて十二年目の春、辻村寛先生から私に依頼があり、昭和五十一年度より本学で、発変電工学と送配電工学を担当してほしいとのお話で、たしか前年迄は、私の恩師である羽村名誉教授が長年ご講義して居られたと聞き、その頃迄高電圧工学の研究会で諸先生方とお会いして御縁を感じ、本務校の承諾を得てお引き受けしました。

昭和五十一年四月初講義の日、教室主任小南先生に導かれて学生諸氏に紹介され、スタートを切つて以来十八年間の過ぎ今回退任することとなりました。当初は小池東一郎氏の「電力発生工学」と同氏著「送配電工学（前編）」を教科書に選び、その後若干の変遷を経て、発電・送配電・系統工学三科目共通の「電気エネルギーシステム工学」を用いることとなりました。初め、十年余は三回生通年の送配電工学、四回生通年の発変電工学でしたが、科目改定に伴ない両科目とも四回生に移り、さらに最近三年間は両科目とも前期に縮められました。熱心に質問される諸氏や精励なる聴講生（社会

人）とも接し毎年張り合いを感じ、羽村先生から教わった項目・式・図表を織込んだり、「発変電工学」で練習問題の解答説明を試み、ノモグラフの紹介、エネルギー仕事熱量諸単位換算マトリクスの配布、送配電で携帯用電卓の練習、懸垂碍子実物の回覧を続けました。昭和六〇年頃以降財務部施設課のご理解のもとに、十一月又は六月の一講時を課外見学に当て、中川会館地階の中央受変電室の現地見学、キャンパスへの電力引込の実況、専用送電線の電圧状況、本学の電力運営の実情の説明を聞き、機器実働の状況、私学人として節電に努めることの必要性を痛感するよい機会でした。電気学会雑誌所載の「西群馬幹線一〇〇万ボルト送電線竣工」の論文をコピーして読みましたが、「高電圧工学」がこの頃はないため、五〇％フラシオーバ電圧、などの用語を改めて説明する必要がありました。円線図、対称座標法・進行波の詳説は前期のみになってからは困難でした。配電方式の一環として「灯動共用異容量V結線三相四線式」の原理と街頭で実回路を見上げて

識別する方法を説明し、登下校の途次見つけて来る課題を出したところ、翌週数枚の写真を提出してくれた熱心な生徒に関心しました。

昭和五〇年代の或る年、電気設計製図で変圧器の設計にCADの初歩とも言える計算機援用の数値で製図に適用する方式で担当させてもらったことも思い出深いです。

惟うに電気、電子、情報三分野に亘り、必修の基礎技術体系を配分するに当り、従来電力工学関連科目は圧縮要約を余儀なくされて来ましたが、精緻なる情報機器の動作にも、電力系統の高性能安全な無停電供給が根本の柱となっていることを思いますと、電力関連科目は今以上に圧縮しないのは勿論、システムの安定経済的效果も加味して、行住座臥生活の根底に密着した素養科目となるよう教育者の工夫努力を必要とすると思います。幸いこのたび草津の新天地の教育の殿堂に進出された機会に、教える者も習う者も、自由な発想の下、高密度化、集約化に新機軸を開拓して頂きたいと熱望する次第です。この十八年間に本学教職員各位から受けた御厚情に感謝すると共に、寄稿を許された電友会諸兄のご研鑽とご発展を切に祈る次第であります。

終身会費御振込のお礼とお願い

本誌第一号、第二号におきまして立命電友会の終身会費御納入のお願いを申し上げましたところ、合わせて五百名にもものぼる方々よりお振込み頂きました。役員ならびに事務局一同厚く御礼申し上げます。今後さらに大学・電気電子工学教室・校友皆様方の相互の交流・親睦をはかるべくその活動を行って参る所存であります。つきましては本会の安定した運営を維持・確保すべく、未だ御納入頂いていない校友の方々には、是非とも終身会費をお納め下さい。ますます重ねてお願い申し上げます。学生諸君にも卒業当日の納入について理解を頂いております。校友の皆様方には郵便振込での納入をお願いいたしております。宜しく御協力のほどお願い申し上げます。

終身会費

納入方法

〒萬円（立命電友会会則第十五条に基づく）
郵便局所定の振込用紙に卒業年、御芳名、御住所、電話番号ならびに終身会費納入の旨を明記の上、最寄りの郵便局にて終身会費をお振込下さい。
振込通知がありしだい事務局より領収書および立命電友会会誌設立記念号（残部僅少）を送付いたします。

振込先 〇一〇六〇一九七五〇〇三
立命電友会

御問合せ先

滋賀県草津市野路町一九一六
立命館大学理工学部電気電子工学科内
立命電友会事務局

電話 〇七七五・一六一・二六六二
FAX 〇七七五・一六一・二六六三
(中西、津田川、高山)

びわこ・くさつキャンパス開設のお知らせ

本学理工学部は今年四月より「びわこ・くさつキャンパス(BKC)」において六学系八学科を擁する総合的学部として新たなスタートを切りました。当学科におきましても理工学部電気電子系電気電子工学科として新たな展開を始めつつあります。昨年度の移転期におきましては、電友会皆様方に対しまして大変な御不便をおかけ致しましたことお詫び申し上げます。

BKC開設にともない建物施設・広場などの名称が決定されましたので、改めましてキャンパス内および周辺アクセスを下記通り御案内致します。電気電子工学科に関わる施設は、ウエストウイング一、二、三階とエクセルの一、二階となります。電気電子工学科事務室ならびに電友会事務局(ウエストウイング二階)への連絡は次の通りです。

郵便番号 五二五-七七

滋賀県草津市野路町一九一六

電話(〇七五)六一二六六二

FAX(〇七五)六一二六六三

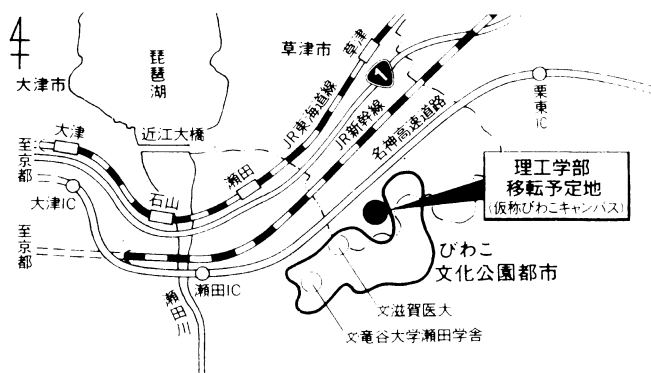
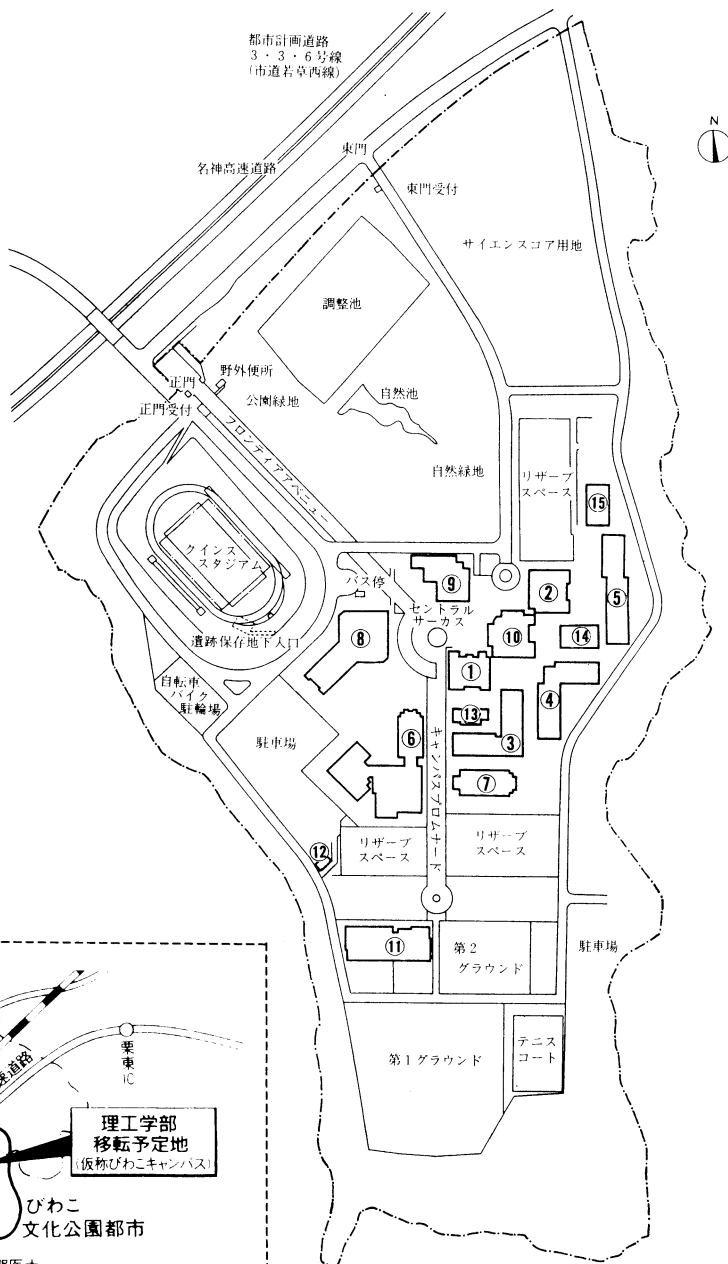
BKCにおきましても皆様方の暖かい御支援・御協力賜りますようお願い申し上げます。

びわこ・くさつキャンパス案内図

Rits

立命館大学 理工学部

- ① ウエストウイング
- ② イーストウイング
- ③ エクセル 1
- ④ エクセル 2
- ⑤ エクセル 3
- ⑥ プリズムハウス
- ⑦ フォレストハウス
- ⑧ ユニオンスクエア
- ⑨ メディアセンター
- ⑩ コアステーション
- ⑪ BKCジム
- ⑫ 音楽練習場
- ⑬ レクセル
- ⑭ ワークショップラボ
- ⑮ セ



電子技術研究センター発足

電子技術研究センター長 三木秀二郎

一、設立の趣旨

この度、立命館大学理工学部では、本年四月に開設しました「びわこ・くさつキャンパス」に、電子技術に関連する研究の高度化・学際化・総合化を飛躍的に発展させることを目的に「電子技術研究センター」を発足させました。本理工学部では学舎移転を契機に、基礎研究の充実を図りながら二十

一世紀における先導的科学技术に
とって社会的要請の強い電子、シ
ステム・制御、情報、バイオテ
クノロジー、新素材、環境などの分
野を中心に、抜本的な再編拡充を
図ります。「電子技術研究センタ
ー」構想は、この理工学部の再
編・拡充計画の一環として、企業
との協力のもとに研究水準の高度
化を進めるものです。

移転後の理工学部は、五十八ヘ
クタールの広大な敷地を有するび
わこ・くさつキャンパスで学科数
も六学科から六学系八学科に増設
し、学生定員も四〇〇〇名台に増
員しました。また、大学院も改組

し、従来の学科のもとに設置され
ていた六専攻を、学科の枠を越え
た四大専攻制とし、一〇〇〇名の
定員枠に拡大しました。電気電子
工学科につきましても、一九九六
年度に光工学関連の学科を新設す
べく計画中であり、電気電子系と
して一学系二学科の実現を目指し
ています。

本「電子技術研究センター」は、
こうした理工学部の再編・拡充に
よる新しい研究条件と、社会の協
力関係を有効に結合することによ
って、社会的貢献を積極的に果た
そうとするものです。具体的には
企業、自治体、民間研究所などか
ら派遣していただく研究者と学科
の枠を越えた本学教員と大学院生
が、研究センター施設で共通のテ
ーマで研究活動を行う予定です。
また、共同研究の他にも大学の教
育研究機能を生かし、寄付研究プ
ロジェクトや委託研究、さらには
企業や自治体の技術者教育等につ
いても積極的に進めていきたいと
考えています。

二、研究センターの役割

二十一世紀社会における科学技
術の重要性はますます増大し、そ
の急速な発展は疑いありません。
しかし他方では、資源、環境など
地球的制約はさらに強まっていく
ことも予想され、人間と科学技術
の調和をもとに、人類社会の健全
な発展をめざした科学技術の研究
開発が一層求められているといえ
ます。そのため本研究センターで
は、持続的な発展を可能ならしめ
る知的資源の集積をめざして、社
会的ネットワークの形成をより強
固なものにし、電気・電子・光に
関わる分野において交流を進めた
いと考えています。

三、研究分野

電子技術研究センターの研究分
野としては、(1)光・電子デバイス
分野、(2)画像情報分野、(3)制御変
換・エネルギー利用分野に大別さ
れます。(1)については、電波、光
波用材料、光機能素子、高速電子
デバイス等材料からデバイスの開
発を目標としています。(2)につ
いては、画像計測、パターン認識、
画像処理、信号解析等電子システ
ムに関する分野を中心におこな
います。(3)についてはインバータ・
コンバータ、ドライブシステム、
太陽光発電システム等について取

り組む予定です。

四、研究センターの組織・施設

研究センターの研究スタッフは
本学の専任教員が兼務しますが、
国内外の客員教授の参加、企業・
自治体等からの研究員の受け入れ
を積極的に進めます。また大学院
生の学位論文のテーマと関連する
研究分野については、院生も研究
スタッフとして参加させ、実践的
な研究指導の場として機能させる
予定です。

社会的研究ネットワークとして
は、近畿リサーチコンプレックス
の北端拠点として、びわこ・くさ
つキャンパスのある「びわこ文化
公園都市」および「湖南研究ネッ
トワーク」が位置づけられます。
「関西文化学術研究都市」「テク
ノポート大阪」「コスモポリス計
画」ともネットが可能でです。

電子技術研究センターでは、将
来専用の研究センター棟の建設を
予定していますが、当面はF.A.
ロボテクス研究センターを中心と
する研究センター群棟の中に一室
を確保し、研究交流の拠点としま
す。実際の研究実験は電気電子工
学科の実験棟に用意されているク
リーンルームをはじめ、各研究室
で行います。

五、研究センター運営資金

研究センターで実施する研究プ
ロジェクトは全て学外資金によつ
て実施されます。また研究センタ
ー棟の建設費も学外資金によつて
行います。電気電子工学教室では、
一九九二年秋から「電子技術研究
センター」の設立を掲げ、企業に
対する協力要請を行ってきました
が、幸い高い関心を寄せられ具体
的な協力を頂ける企業も少なくあ
りません。

電友会会員の皆様のご協力を宜
しくお願いいたします。



電気電子工学教室だより

電気電子系学系長 中西恒彦

教員の異動

次のような異動がありました。

(昇任)

荒木 義彦

平成六年四月一日、電気電子工学科助教教授より、同学科教授に昇任。

津田川 勝

平成六年四月一日、電気電子工学科助教教授より、同学科教授に昇任。

(新任)

寺井 秀一

平成六年四月一日、(株)日立製作所より、電気電子工学科教授に着任。

名西 愼之

平成六年四月一日、N T T (株)より、電気電子工学科教授に着任。

山田 廣成

平成六年四月一日、住友重機械工業(株)より、電気電子工学科教授に着任。

平成六年度の電気電子教室の主要な委員

学系長

副学系長

中西恒彦

津田川勝

学生委員 高山 茂
就職委員 川畑隆夫
学生主事 荒木義彦

二部担当学部主事 菊屋公明

理工学研究所主事 溝尻 勲

光工学科設置準備委員長 岡田正勝

94フォーラム実行委員長 津田川勝

平成五年度電気電子工学科卒業生進学就職状況

平成六年三月に卒業した学生の進学就職状況は別表の通りとなりました。平成五年度の求人数は、昨年同様に全国的な不況の影響でかなり厳しい状況でありました。必ずしも希望の企業に採用されなかった卒業生も幾人ありました。本年度も出来るだけ小数の大企業に集中しないように就職指導致しました。その結果、就職者八十五名の就職先は六十九社になりました。修士課程への進学者は五十二名そして博士後期課程への進学者は一名でありました。本年度も多くの先輩卒業生の方々から就職の御依頼を受けましたが、十分御期待に沿えませんでした。心から御詫びとともにお礼申し上げます。

平成五年度電気電子工学科卒業生進学就職状況

項 目		学 部	修 士	就 職 先
卒 業 者 数		1 1 4	2 5	
進 学 者 数		5 2	1	
家 業		1		
就 職 者 数		6 1	2 4	
会 社 ・ 官 公 庁	電力・ガス	2	1	関西電力、北陸電力、大阪ガス
	自動車・鉄道	2	1	スズキ、南海電気鉄道、トヨタ自動車
	電 気 関 連	3 1	2 0	ケンウッド、光電子工業研究所、新川電機、双和電機、トーエネック、ナナオ、ナムコ、日本電装クリエイト、日本 IBM、日本電気、日本電池、日立製作所、富士通テン、堀場製作所、松下電工、三菱電機、山武計装、ユアサコーポレーション、きんでん、松下電器産業、ローム、三洋電機、東芝、オムロン、沖電気工業、シャープ、星和電機、日新電機、日本電装、日本モトローラ、ワイヤデバイス、タカラストンダード、メルコ・パワー・システムズ、村田製作所、大日本スクリーン、三田工業
	機 械 関 連	1 1	1	イシダ、積水化成品工業、日清紡績、ノーリツ、レンゴー、別川製作所、三菱重工業、村田機械、エヌ・エス・ケー、ヤンマーディーゼル、ニッタ、三機工業
	建 設	6		住友電設、奥村組、関電工、西松建設、松村組
	ソフトウェア	3		日立西部ソフトウェア、にちほシンクタンク、C B C ビジョン
	公 務 員	2		国家公務員、豊田市
	そ の 他	4	1	からふね屋、中京コカ・コーラボトラーズ、日本生命保険、日本たばこ産業、立命館

(順不同)

平成五年度卒業記念祝賀会開催

平成六年三月二十一日(例)卒業式当日午後五時半より、平成五年度卒業記念祝賀会(電気電子工学科主催、立命電友会後援)を末川記念会館第五会議室にて開催致しました。卒業生、修了生、教員ならびに立命電友会副会長を迎えて、約一二〇名の会合となりました。晴れて卒業・修了を迎えた学生諸君に対して、中島一郎電友会副会長そして苅屋公明先生、杉本末雄先生より、御祝辞を頂きました。

同窓会だより

『三十六年卒業生びわこキャンパス同窓会』

快晴に恵まれた本年四月三十日(土)午後、新装になったびわこキャンパスに、三十六年卒業の同窓生が三年振りに参集した。全国から御夫婦参加も含め総勢四十名が新校舎を訪れた。先づ学舎の呼び名が英語に変わっているのに驚き、そして大自然に囲まれたその広大さに圧倒される。浦山先生の出迎えを受け、教室で新校舎の設立主旨、特徴や設備の概要について講義を受ける。その後、辻村先生も参加して頂き順次案内、説明していただく。実験室では、様々な器

具などが整理されて配置されており、見慣れた器具も二・三有りタイムトンネルよろしく学生時代の自分に戻る。図書館の雄大さ、近代化に驚いたが、一般市民にも広く門戸開放されていると聞き、立命館の建学精神が感じられ感動する。最後は屋上まで行き、湖南の自然風景に暫く見とれてしまう。時間が来たので、次の会場にあたるホテルオークラへ移動。前田先生にも加わっていただき、いよいよパーティーの開始。大江氏の司会で幹事の開会挨拶、浦山先生、辻村先生の祝辞、前田先生の乾杯の後、暫くコンパニオン三名を加えて歓談に花が咲く。途中、一人一人の近況報告が入る。欠席の方々の近況は返信ハガキをもって紹介する。そしていよいよ次回幹事選出。広瀬、島貫、平井、福井、小林氏五名に決定する。フィナーレは寮歌、応援歌そして校歌、赤き血潮を全員で大合唱して無事終了となる。

今回の二次会も殆んど全員出席。ホテルのVIP室を借り切りカラオケ大会、懇談会に早変わり、ワイワイガヤガヤの楽しい一時を過ごした。すっかり夕闇に包まれた湖面に映える夜景が美しい。午後九時、ほろ酔い気分での再会を約して解散した。次回は三年後に開催されるが、今回欠席の方も含め多数参加される事を希望します。今回も幹事会十数回、幹事を担当してみたい一言、返信ハガキは期日までに欲しい。予算が立てにくい。尚、羽村先生、小原先生、山本先生が御病気で欠席され非常に残念でした。一日も早く元気になれる事を祈願して居ります。又同窓生皆様の御協力に感謝致します。最後にになりましたが、校舎移転や新学期スタートで御多忙中にもかかわらず御出席、御案内賜わり先生方に厚く御礼申し上げます。立命館大学の益々の御発展を祈念申し上げます。

(幹事一同 青池、大江、大野、大塚、山岡)

立電七〇(ななまる)会

一昨年の電友会結成総会では一九七〇年卒の同期生が三十名近くも集い懐かしう楽しいひとときを過ごしました。その時に次は「同期会」との声があり、去る六月十一・十二日中京区のホテル清水にて第一回立電七〇会を開催しました。会には六名の先生方、五十名の友とその家族の参加があり、会を代表して高野氏の会発足迄の経過報告、辻村先生の祝辞、松田先生の乾杯となごやかな中に進められました。



昔と変わらぬ若々しさをキープされてる先生方、しばらく会わない内に先生と見間違えうほどの雰囲気をおかた(？)で同期生として思い出し、懐かしい話や近況等でだんだんと盛り上ってききました。

七〇年卒といえは学園紛争のために三回生の後期試験は総てレポート提出にてOKだった幸運な卒業生、もし試験だったら卒業できなかったのでは……との声もありました。

その後、卒研グループ等に別れ、木屋町付近での二次会でも、終電車の時刻を気にしながらも話がつきなかつたようです。

宿泊組はホテルに帰ってから三回会を楽しみ、体力的には五十前を認めながらも気分は学生時代のまま、興奮した一夜でした。

(七〇年卒 石井 記)

苅屋研究室同窓会

昨年度の同窓会にご欠席の皆様方に「研究室卒業生名簿(増補改訂版)」をお送りし実費の御援助をお願い致しましたところ、多くの方よりお振り込みいただきました。御協力賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

また本年六月五日(日)、びわこ湖畔にて研究室の屋外パーティを開催致しましたところ、最寄りのOBのご参加と差し入れを賜りました。合わせて御礼申し上げます。

事務局便り

会報第三号の発行にあたり御寄稿頂きました方々に心より御礼申し上げます。学部移転にともない事務局連絡先が変わりましたが、皆様方におきましても御連絡先等の変更がありましたら本会まで御一報頂きますようお願い致します。

立命電友会事務局連絡先
〒五七五-七七
滋賀県草津市野路町一九一六
立命館大学理工学部電気電子工学科内
電話 〇七五-六一二六六二
FAX 〇七五-六一二六六三

(題字は久保之俊氏)